短冊百人一首

天智天皇　秋の田のかりほの庵の苫をあらみわが衣は露にぬれつつ

持統天皇　春すぎて夏来にけらししろたへの衣ほすてふあまの香久山

柿本人麿　あしびきの山どりの尾のしだり尾の長々し夜をひとりかも寝む

山辺赤人　田子の浦にうち出でて見れば白妙の富士の高嶺に雪は降りつつ

猿丸大夫　奥山に紅葉踏み分け鳴く鹿の声聞く時ぞ秋は悲しき

喜撰法師　わが庵は都のたつみしかぞすむ世をうぢ山と人はいふなり

小野小町　花の色はうつりにけりないたづらに我が身よにふるながめせしまに

蟬丸　これやこの行くも帰るも別れては知るも知らぬも逢坂の関

参議篁　わたの原八十島かけて漕ぎ出でぬと人には告げよあまの釣り舟

僧正遍昭　天つ風雲の通ひ路吹きとぢよをとめの姿しばしとどめん

陽成院　筑波嶺の峰より落つる男女川恋ぞつもりて淵となりぬる

河原左大臣　みちのくの忍もぢずりたれゆえに乱れそめにしわれならなくに

光孝天皇　君がため春の野に出でて若菜つむわが衣に雪は降りつつ

中納言行平　立ちわかれいなばの山の峰に生ふるまつとしきかばいまかへりこむ

在原業平朝臣　ちはやぶる神代も聞かず竜田川からくれなゐに水くくるとは

藤原敏行朝臣　住の江の岸に寄る波よるさへや夢の通ひ路人目よくらむ

伊勢　難波潟短き芦の節の間をあはでこの世を過してよとや

元良親王　わびぬれば今はただ難波なるみをつくしても逢はむとぞ思ふ

清原深養父　夏の夜はまだ宵ながらあけぬるを雲のいづこに月やどるらむ

文屋朝康　白露に風の吹きしく秋の野はつらぬき留めぬ玉かとぞみる

右近　忘れじの行末まで　かたらひし　人の心の　あだ波　かけじ

参議等　浅茅生の小野の篠原忍ぶれど色に出でにけりわが恋は

平兼盛　恋すてふわが名は　まだき立ちぬ　人しれず　思ひそめしは　わが　心

壬生忠見　恋ひ　恋ひ　ぬ　る　夜　の　夢　の　浮　き　ま　くら　な　ど　か　た　な　し　き　う　た　た　ね　に　し　て　か　ら　に　こ　ん　な　に　な　ら　ず　と　も

光孝天皇　[illegible]

中納言行平　立別いなばの山の峰におふる
まつとしきけば今かへりこん

在原業平朝臣　千早ぶる神代もきかず竜田川
からくれなゐに水くくるとは

藤原敏行朝臣　住の江の岸によるなみ夢の
かよひぢ人めよくらん

伊勢　難波がた短き芦のふしの間も
あはでこの世を過すとや

元良親王　侘ぬるわが袖だにも乾
なくに干してもかひなし海人

素性法師　今来むと言しばかりに長月の
有明の月待出つるかな

文屋康秀　吹からに秋の草木のしをるれば
むべ山風をあらしといふらん

大江千里　月見れば千ぢにものこそかなしけれ
我身ひとつの秋にあらねど

[illegible]　[illegible]
ひたひはぬさ[illegible]
[illegible]の神のまにまに

三条右大臣　名にしおはばあふさかの関
[illegible]

白[illegible]　わが衣[illegible]
[illegible]

[illegible]　[illegible]
[illegible]

源宗于朝臣　山里は冬ぞさびしさまさりける
人めも草もかれぬと思へば

凡河内躬恒　[illegible]
[illegible]

壬生忠岑　有明のつれなくみえしわかれより
あかつきばかりうきものはなし

坂上是則

[illegible]

春雨樹

[illegible]

紀友則

[illegible]

菊原景行

[illegible]

紀貫之

[illegible]

清原深養父

[illegible]

文屋朝康

[illegible]

右近

[illegible]

春道列樹

[illegible]

平兼盛

[illegible]

壬生忠見

[illegible]

清原元輔

[illegible]

藤原敦忠

[illegible]

藤原朝忠

[illegible]

謙徳公

[illegible]

曾根好忠

[illegible]

真髮法師　[illegible]

源宣之　[illegible]

大中臣　[illegible]

藤原実秋　[illegible]

藤原実房　[illegible]

藤原実[illegible]　[illegible]

大[illegible]　[illegible]

儀同三司　[illegible]

大納言公任　[illegible]

和泉式部　[illegible]

小式部　[illegible]

大弐三位　[illegible]

赤染衛門　[illegible]

藤原為頼　[illegible]

清少納言　[illegible]

[illegible]

相模

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

清涼殿[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

色紙短冊表具

大色紙　壁　横　堅　横　四寸

短冊　長　横　八分

二行書かなのはるる

[ゐ]のゐをとをとゝひのわりまちなの
のゐをとゝてゝひよあのゐのををよひ
堀 巖 樫 新 高

[う]のうをゆゝくひのわちちのり
くゝゝゝゝ切りゝ下ゝくゝゝ出て抜ゝむ
若 細 紙 服 六ケ敷 上

[れ]のうをはりすまゝゝのりゝ大のうの
とゆくゆつゝゝうゐなり
大西 大元 大社 大井川
大江山 大角 大海 大海

[を]のうをとはりゝるのゝゝゝのゝ小のうの
とかくゆつゝゝうゐゝゝ

小野小町

[あ]のうをゆかゝ八 小栗 小海
[へ]のうをとゝくゝゝ 佐渡 井筒

ゝよかく 清見 まさ橋 松へ
ゝよかく いゝ ゝよかく ひ ゝよかく えのゝ まさ
ゝよかく わ ゝよかく ハ ゝよかぬ は
ゝよかく う ゝよかく ふ ゝよかぬ か
ゝよかく れ ゝよかく を ゝよかぬた
ゝよかく ゐ ゝよかく へ ゝよかぬつ
ゝよかく け ゝよかく め ゝよかぬな
ゝよかぬ ゝよかぬ こ ゝよかぬ ふ
ゝよかぬ へ ゝよかぬ ね ゝよかぬ ま
ゝよかぬ と ゝよかぬ と ゝよかぬ ゝよかぬ
ゝよかぬ ち ゝよかぬ ぬ ゝよかぬ を
ゝよかぬ り ゝよかぬ く

[ま]のゝ
[か]のゝ

七夕の由来　奇法し

[illegible]

七夕、祝儀

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

女歌寒夜数

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]ぬ[illegible]人で[illegible]
[illegible]いま[illegible]言ハ[illegible]ふるる[illegible]
分に[illegible]ば[illegible]ハ[illegible]ふるる[illegible]
[illegible]年[illegible]百[illegible]歳[illegible]ハ[illegible]嫁入[illegible]
[illegible]登なくてハ[illegible]
兄弟ハ[illegible]
音信[illegible]
けで[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ月[illegible]
[illegible]
[illegible]

嫁入[illegible]めい[illegible]くゆ[illegible]べ[illegible]
[illegible]ば[illegible]人な[illegible]
その[illegible]
[illegible]
[illegible]

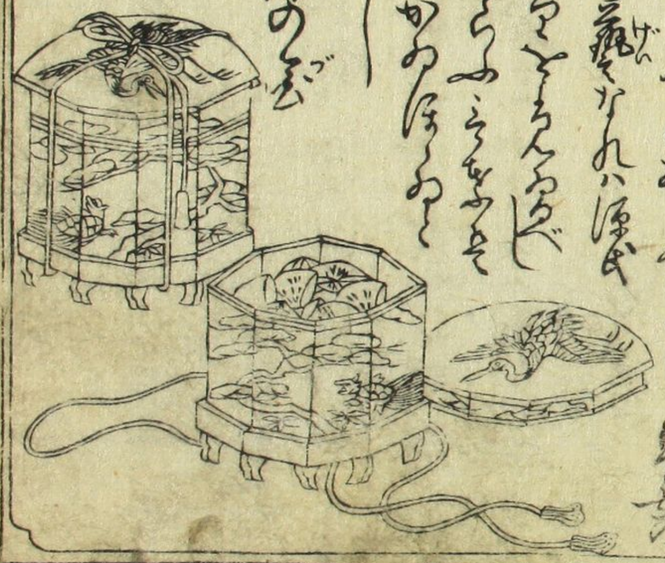
[illegible]
異絶なる人のそのあるさま
その体あん舎[illegible]の[illegible]裏の[illegible]
氏[illegible]き婦と[illegible]あはれ
[illegible]信乃人の家[illegible]
[illegible]泥[illegible]蓮の[illegible]
父と母と神仏のことし
[illegible]こと
[illegible]乃[illegible]
母[illegible]
父母[illegible]
[illegible]

こ[illegible]
[illegible]やまひ[illegible]
[illegible]
[illegible]

こゝろ
ゆ
と
はゆゝ
なるとき
ほ
ら
ハ
ハ
老人と
ハ
ハ
ゆ
ゝ
ま
人と
人
我人の
人又
家
人
人の
家
我
人
家
若
人
人
ものゝ
人の
人
家
時
食
富
貴

貝はくわせもの

貝はのといハ源氏のものがたりの
心と貝一対ずゝ物をあらそかせ
すきらゝしきをわきまへられし
おのおのいろいろ源氏あるうち
はたらゝてらわらせゝ女の
ひとつの義なれハ源氏
のものがたりの貝合とゝ
貝合とゝ
ゝ物のあそび
ゝつべし



貝殻の図

板明障子の事

障子の中ほど破れ紙をとりのひ
ちぎりそろえこれの時紙のかた
よりかさねけよ障子のようるとまるで新
らしき障子よ

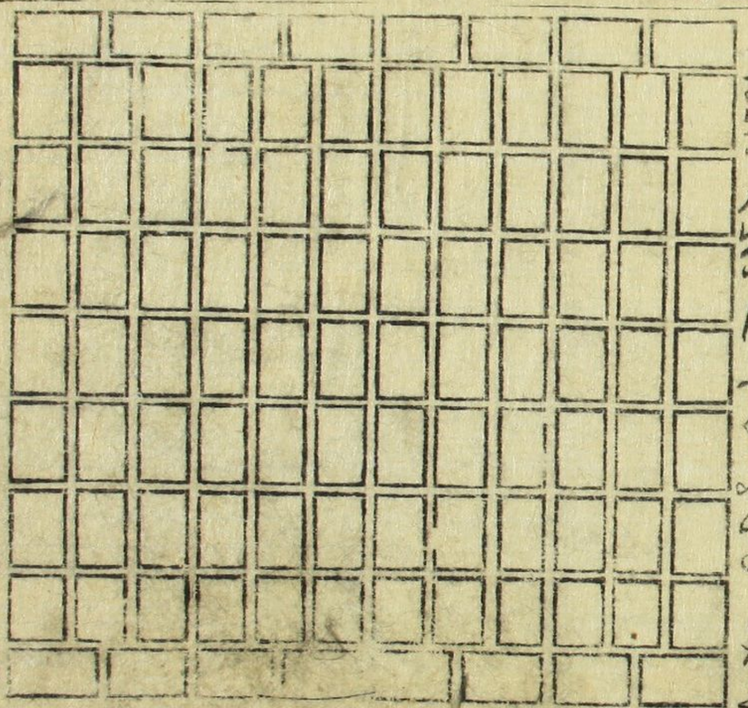
からくのこれとぬれぬ所ハ
まるでやりけ也ハなりひしゝそのへと
まるでやりたるひしゝ板のすてるる
とありけるばおくらるるとやのるる
けるとはのまつらとて板障子

障子のすみのすれ

とのるとこはゝこゝとるるを
ちんとるるつけちちるるてちのるるを
やまくわゝそひちるハこゝる
やまくくくそこゝちるとくゝちるに
人のやちるよあるとてぐすん
ちるひしゝそ井一こ

障子のくぶれの事

障子のくぶれ之時ハ筋ちんかるるを
ちかるるまこゝ三通るくぶれハ八ちの紙なくぶれ
ちんと八枚つかぎれ障子のおくなる



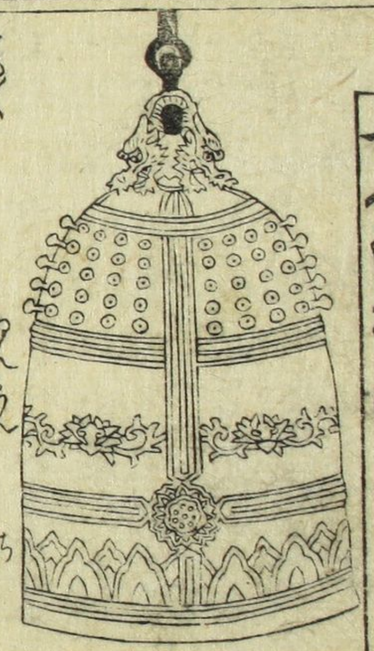
くぶれ障子と屋でてなくちの屋次

十炷香さくこと事

十炷香さくことは番組いろはのさまを書れたるを札と箱とをとりて出とり出番をさくりてとりの出番をとりて出番をとりて出番をとりて

[illegible]

女人法華經の言葉因縁



抑はるばるの因縁ハて扨いまゝ
しらけざるむしゝひゞゝのすゝは
勝野尼といふ尼ちて三名ハ年し刻
ゝ雲の刻ゝ三ゝ四風をふきくの正
ゝ雲ゝとゝるゝ又高雲の角ゝ飢饉と
いふ精ちてゝの刻ゝ三ゝ毒氣
と云て人の命をとれ佛ちをかけ
尼籠の面魔除伏のたゝはう
がゝと持て時くゝの報をはり光
明ゝ見ゝとゝるゝ法華經ばゝと云

年来中雨戌癸
秋子丑寅卯辰巳
年月日時の内に
ゝ法ゝ女ゝ子高ゝ法ゝ尼ゝ肉ゝ

[illegible]

いろはにほへとちりぬるを
わかよたれそつねならむ
うゐのおくやまけふこえて
あさきゆめみしゑひもせす

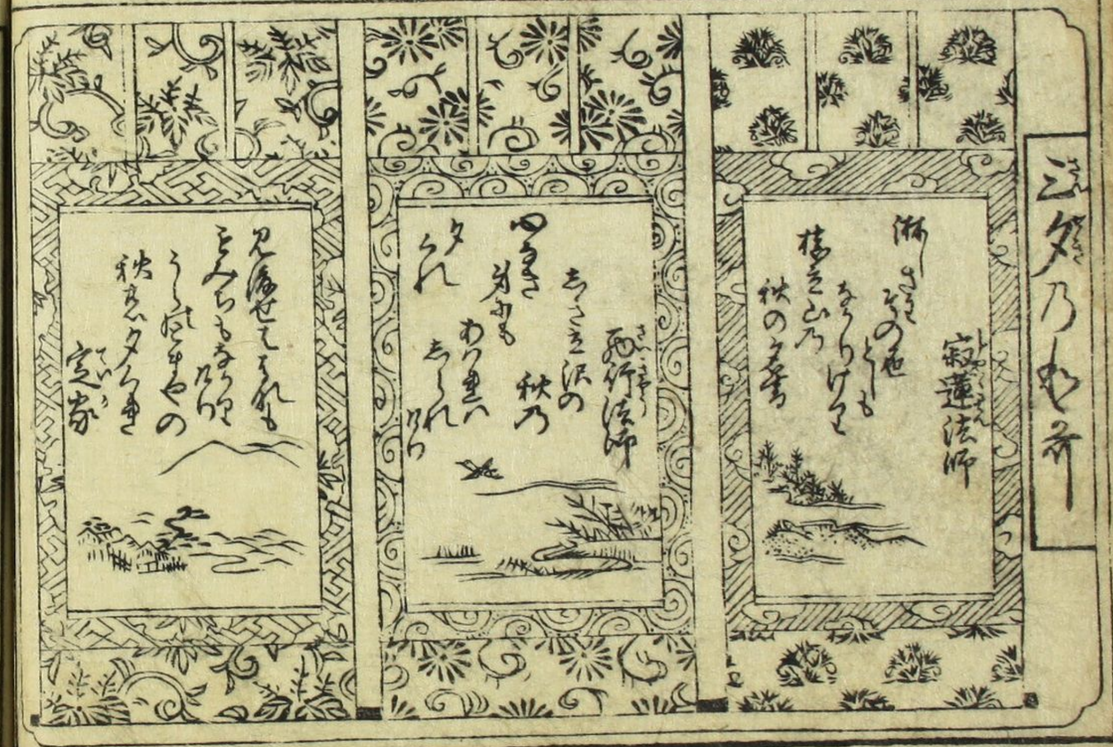
[illegible]

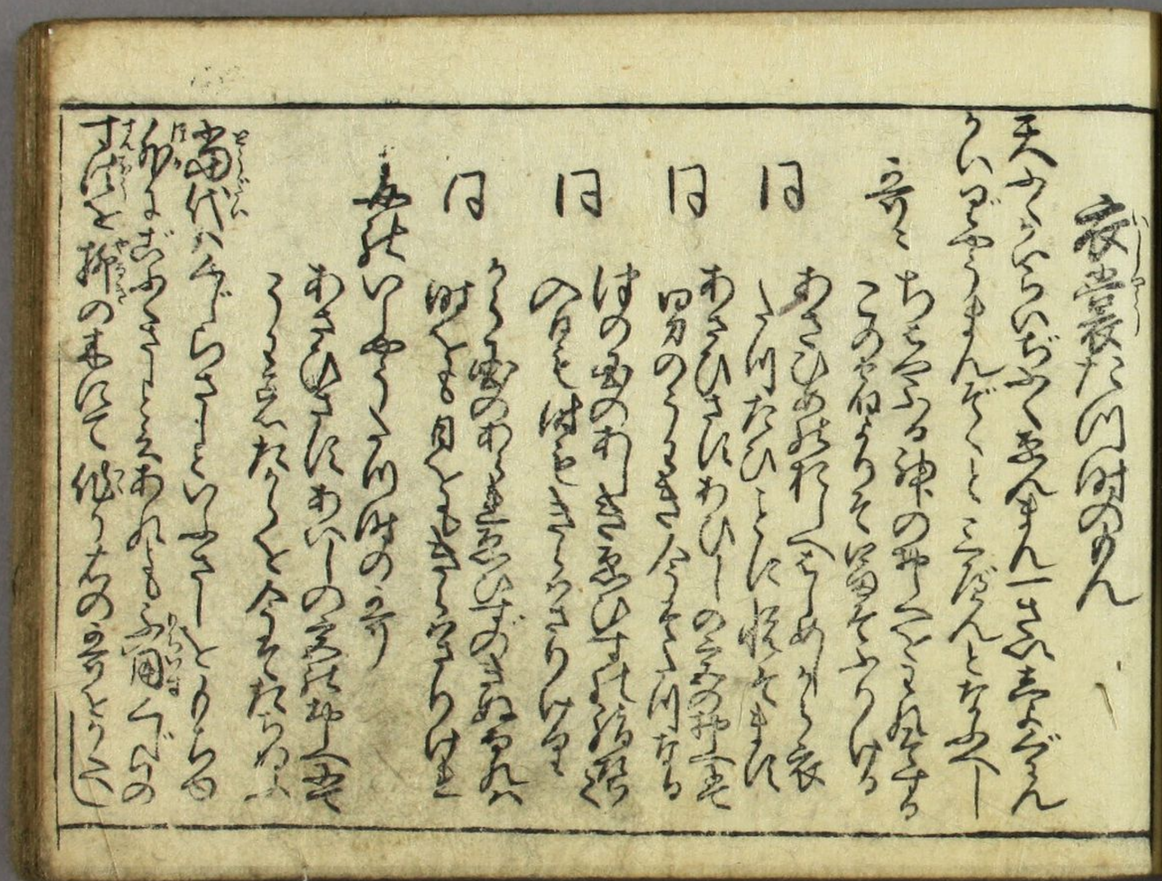
わが家と神はけす

玉津島大明神を先祭とす　その后御妹宗之
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

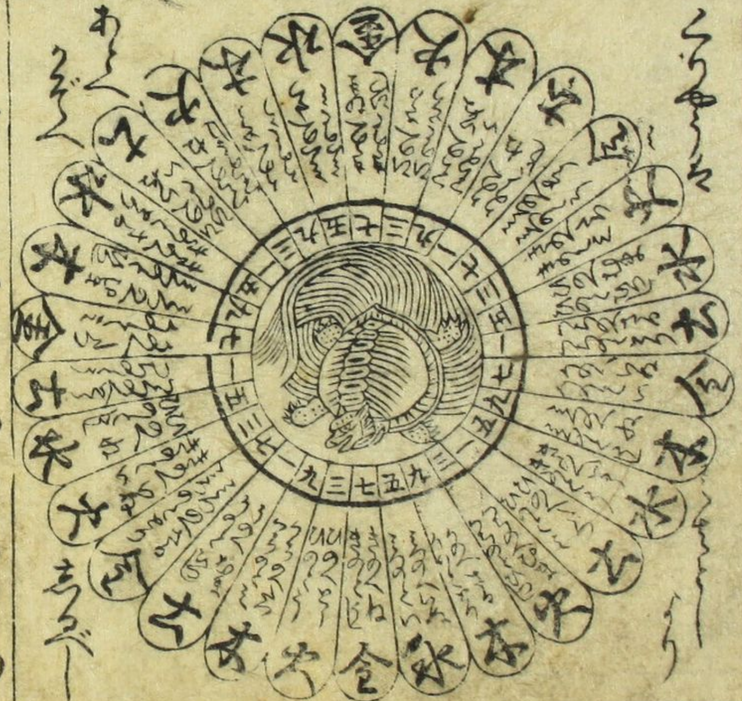
任右大臣神を神宮后三輪近居家
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

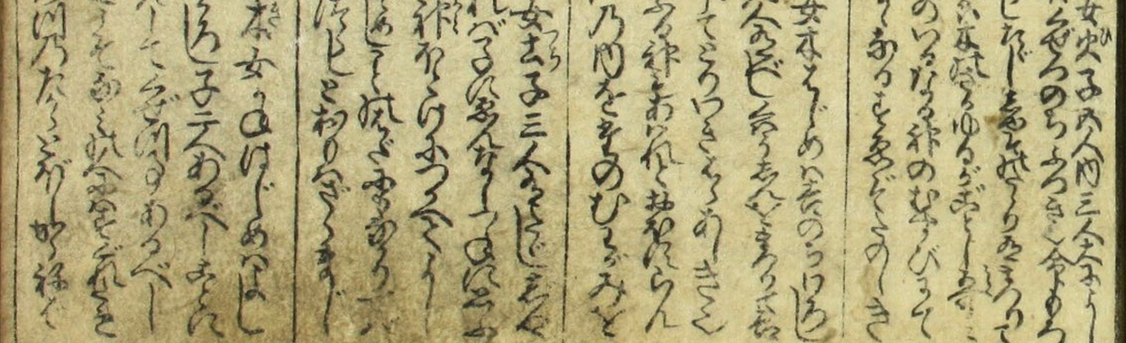
人丸大明神を天定表榊人の事　般若寺
乃御宮家には榊の木あり　表向　社会后
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]


法然乃ゆ所
寂蓮法師
西行法師
定家



男女相性の奇花歌六十番





男木女ゐ子ふたりあそこ迄来の
おもりけるあうしてはでんぐ迄人を
作とまりてはでんぐ迄人を
▲あるかしらん神ひろうてそ
ふるるぞうしろ

男火女大ようろうまあ
まるいちくりみたりほどて
にぜんとうあんとまろうて
▲ひかるびんぼう給ひ
うあそひまあそ帝さ

男火女ちかふたりさんの人の
ひさこの内ひさをたんと
あろうき延命世ろうて
▲あひまあ人をあくもすびて
えがおとけのつをれぐさよ

おとこ火女木ゐ子さんをみて
子ふたりはいかうちかく
まろうそあらしむまふあんを
▲なのりくもきかと云た
ごせと行ぐみそまびかりくる

男火女ゐ子三人の三人の
どの作りあ全ちくるふ
▲りくりひるする仏
和尚ごそまひかりれ

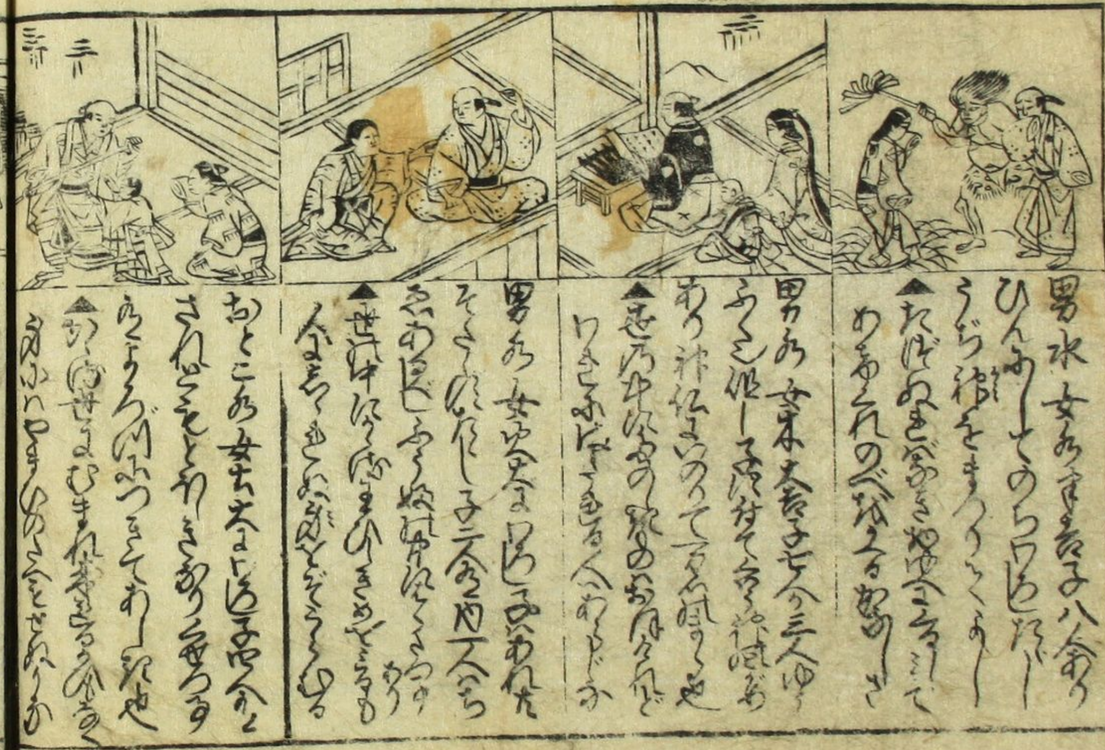
男火女ゐ大ようろうまあ
ことひんぼうくりふこと
ふるりとりふかるれ
▲りろうりふかるれ
ワゴ才郎ちよひるゐ

男去女去ゐ子三人あれぞるあ
ちくちくにゐ子ふたりあ
▲卵をくだれひとりの
こがどごしひかりくりろう
ひかりくりろう

男去女冷ゐ子ゐ人の三ん
ぐくに付そくとれはもうるの
作をまつりどんのまんぞ
▲石ゐ子ゐうぞ作ふたり
ゐのりくりくりくりくりくを

男金女ともに二人ゐるこゝのはしにあれまうあがりてゐるとき
▲青山中納言ひろまさ卿のあるじ
はしにのぼりてゐるとき
男金女あるこゝのはしにあるきて
思ひてのちまでもくるしみ
らくしてあるとき
▲ひろまさ
きのまへにたちのりけり
おとこ金女共にこゝのはしに二人
のれるものあり
幼なをとこ
▲ひろまさ
はしにのぼりてゐるとき
男金女ともに二人
手をとりて天下をとるおもひ
▲ひろまさ
白日にてこゝのはしにたちのりけり

男ムム女ともに大こゝのはしに
ちくはしにあるとき
▲ひろまさ
いつまでもこゝのはしにゐる
男ムム女本まきをとりあげはしに
ねぐらもなくはしにゐる
西の方をほしてからくのあるとき
▲ひろまさ
いのきこゝのはしにゐる
男ムム女大こゝのはしにゐる
はしにのぼりてゐるとき
みてゐる
▲ひろまさ
はしにゐる
男金女金大こゝのはしにゐる
のちまでもこゝのはしにゐる
▲ひろまさ
はしにゐる



男水女あり女子八人あり
ひんかんしてのちに民たり
うぶすなの神をまつりくらす
▲たびびとあまたきたりてこれ
をもてなすあれのべなるあり

男あり女子大きなる七人の子ゆ
ゑ貧しくして分て方々にわかれ
ありて神仏をまつりて方々にわ
▲遠乃中に家あり乃ちこれ
ひとりさびしくくらすなり

男あり女子大きなる民五人あり
そこの民ゆゑ貧しくして四人の
子あり民ゆゑ貧しくくらす
▲世は中に人あり乃ちこれ
人なり

おとこあり女子大きなる民五人あり
さればこれをもてわきまえ
みちをしるべしこれ世をすぐる
▲おのづから世をすぐるなり
あり

男あり女子大きなる七人あり
ゆゑ貧しくして方々にわかれ
ありて神仏をまつりくらす
▲世は中に家あり乃ちこれ
ひとりさびしくくらすなり

勢至 十二日
千手 十七日
離中断
坎中連
坤皆断
艮上連
大日 八日
虚空蔵 十三日
乃子年
乃丑寅年
乃辰巳年
乃未申年

性	性	性	性	性
上	火	木	金	水
町	垣	中	竹	六
信濃	義	陸	蓮	也
駿	徳	奥	不	出
信	義	陸	蓮	也
濃	徳	奥	不	出
駿	義	陸	蓮	也
信	徳	奥	不	出

○ 暴ぼうそ

○ 横目

男女和合事

はらのよいの男

ひはしのよい男

ひはしのよい女

かのくさるの女

しかくだるの女

四十過ぎ

たいのよい

いのよい

うのよい

ねのよい

みのよい

とのよい

ひはしのよい

さるのよい

ひまのよい

とりのよい

やしのよい

いぬのよい

かくのよくひまれ

いしのよいれ

あるものよくこれ

あるものよくこれ

新宮れきまう姫

三番
四番
五番
六番
七番

[illegible]

[illegible]

[illegible]

長生殿の時鳴

[illegible]

[illegible]

[illegible]

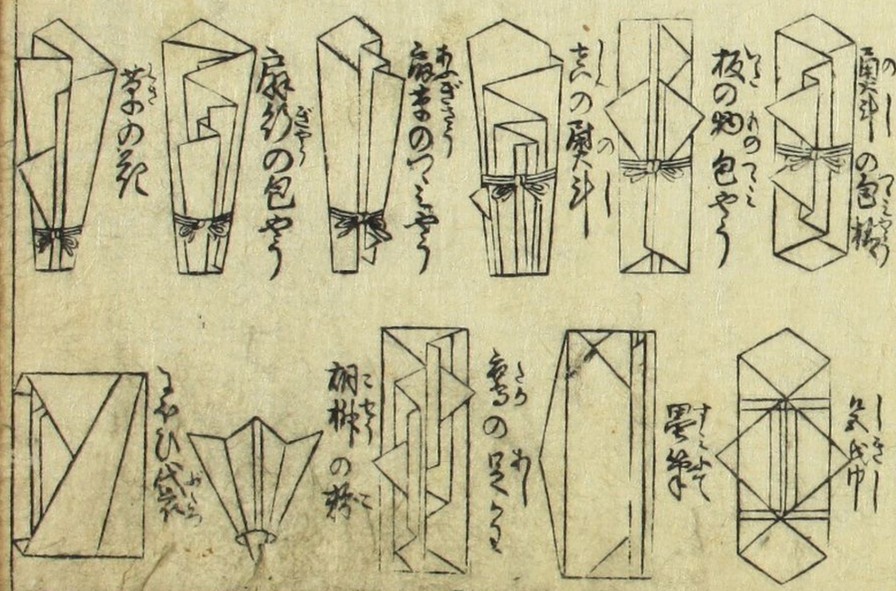
一就のことにはあらかじめよりとぬきかけ
みとこ砂糖をとき付るべし
一同方　たんぽの毒を解てとき
一ゑびもろこ　たまいのうるよくまのい水よ
りときてこねくるうり
一かくこくうく時そ米とさとうゆな
さしてそうし
一ゑびもろこの中よりかさできたる時みるき
くがきくろゆきすてごゆのあるくて
粉り付てそうし
一白ごげの茶、せんたいの　せんだんのほりて
くろゆきゆて付てそうし
一ちとゆけまいほまいと　ひくさくさの粉にて
うくのあづくて粉り付てそうし
一ほくくくの目上のちゆ　ゆ郎ゆてときさてそうし
一そう目上　雛の粉ちゆ　ゆてそうし
一ゑのきもとうすゆ　たきけ
くも目上そうし
一ゑびもろこちゆきぎうまいとんるんしゆと

粉かけてのりよゆませりのひくり
さるべし
一下ゑんゆきけ　あとせんだくほ
あるん茶と行の出くそを南方よ合
くろゆきけ　粉にてゆりけてそう
一ちをちくゆくゆんゆちゆ　ゆ郎ゆ
ちゆきゆてゆちゆ
一ゆきけ　粉にて付てそう
一だくこくちゆ　ちゆのよるゆて
あしゆべし
一つんびゆくゆ　大麦と合くいりかま
ゆて合ゆんしゆ

武三鮮門出之中

源へ仕鮮人門出の時又無之中あり
是武三鮮之先又ゆくけとれこゆんの
てゆかくけこ方のひづりきよんさゆく
ひくけそ見もくゆんのくてひづりきに
ゆきてゆかくけのよるゆ○又ゆ

小笠原方折形の図



嫁入門出

[illegible]

祝言の引物

[illegible]

新婦入会

[illegible]

新婦入会

[illegible]

婦人三献

[illegible]

[illegible]年

[illegible]

白　赤　青

[illegible]

[illegible]年

[illegible]

[illegible]

[illegible]

肥長酒そんき

[illegible]

○二月廿日
新玉のとしのはじめの
はるのかぜ
いろもそめなし
そくりもなし
そくりのうへ
そくりのうへ
そくりのうへ

○ゆきの
[illegible]
[illegible]
[illegible]

○ほとゝぎす

○ほとゝぎす

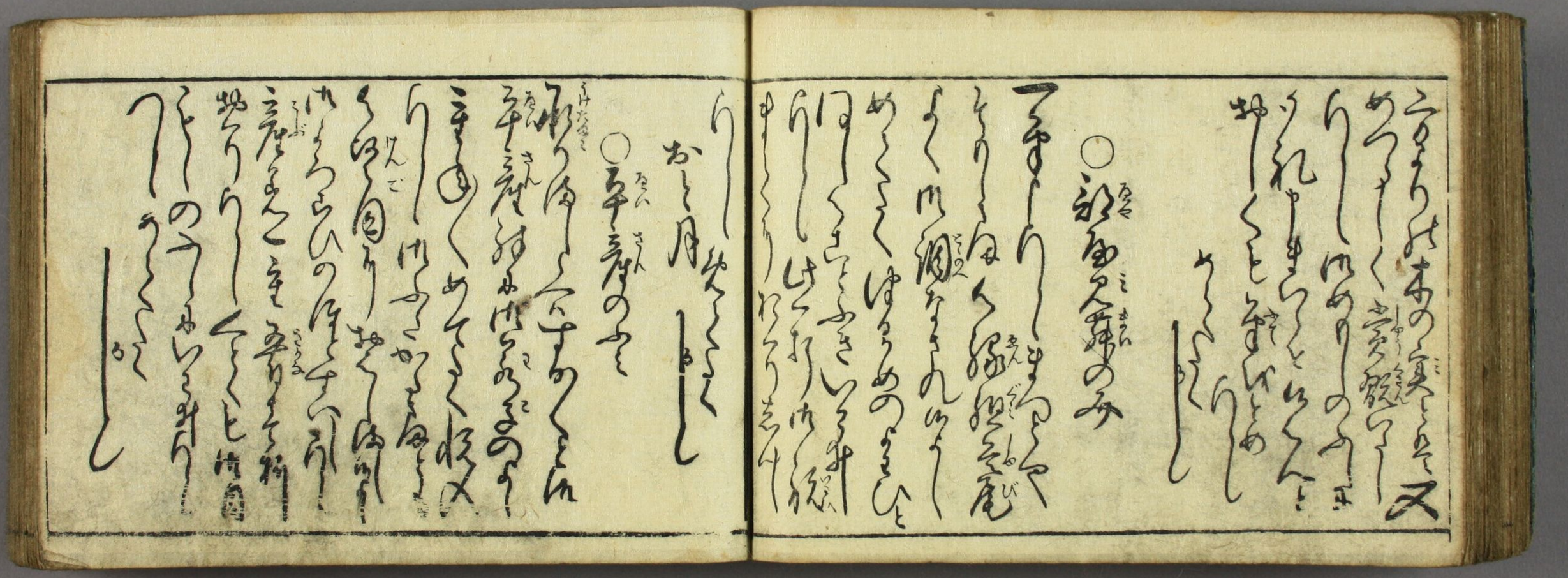
○七夕

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○九月九日
菊の酒○はせをの
きくの酒○はせをの
酒をすすめて
ゆるりとあそ
ばれ
みのりとこの
あるじ
らし
酒をすすめて
あるじ
菊月九日
○月くもり
酒をすすめ
みのりとこの
酒をすすめて
みのりとこの



○節の
[illegible]
[illegible]
[illegible]

知月

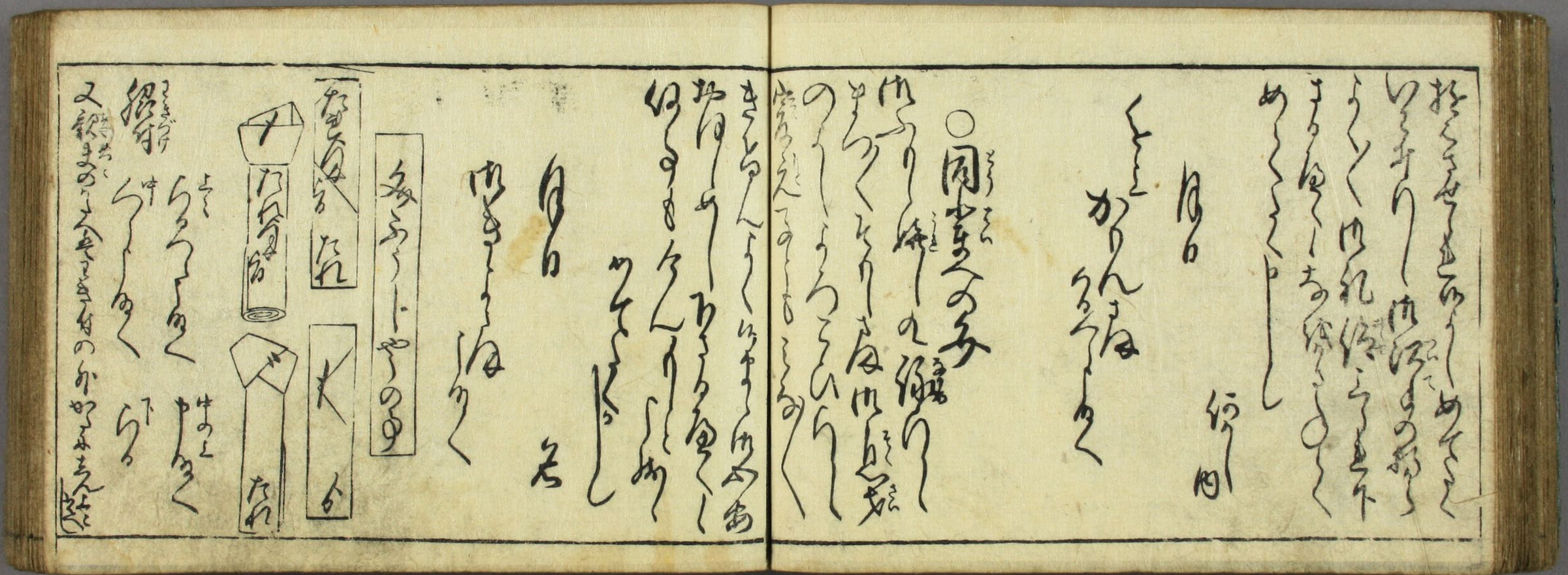
○月ゝ

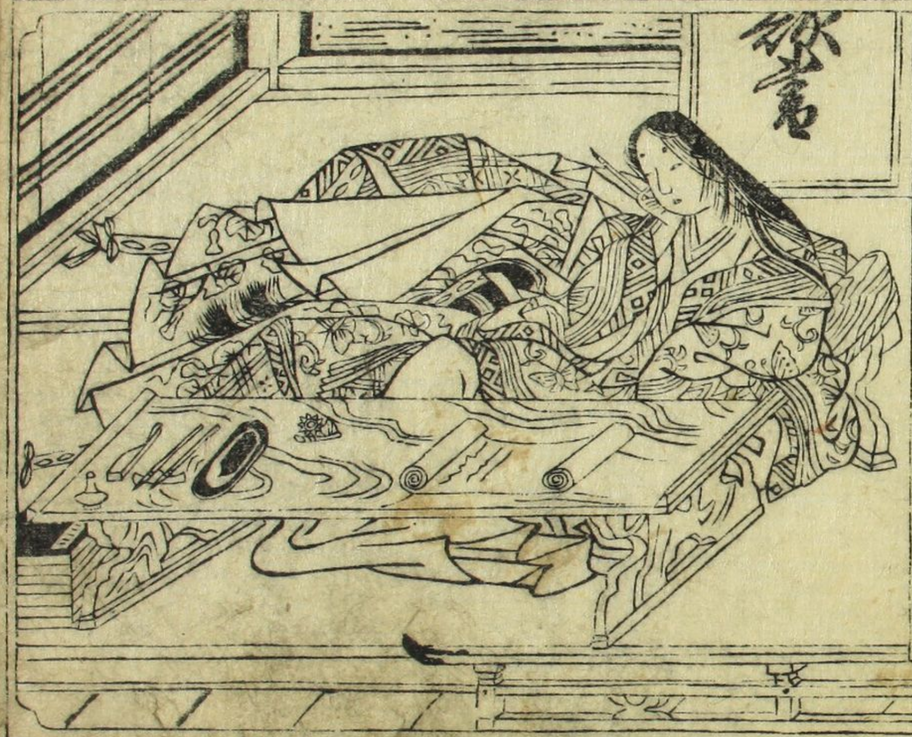
○ひろ[illegible]の中

[illegible]奥[illegible]宋

[illegible]中納一[illegible]

[illegible]





湖月女文章　桂源氏　月香之巻

恋之文あやとかつる

月　作

深雪月

何屋何れ馬板　一

何屋何ぞ馬板　二

何屋何ぞ馬板　三

何屋何ぞ馬板　四

一　山吹の一枝なれども色香ふかるべし

二　花はけ助てそ色あり

三　もゝはの如花にて美なるものゝかをり花ゝ

四　ぞ人ゝ多る花ゆゑの付

源氏物語五十四帖目録

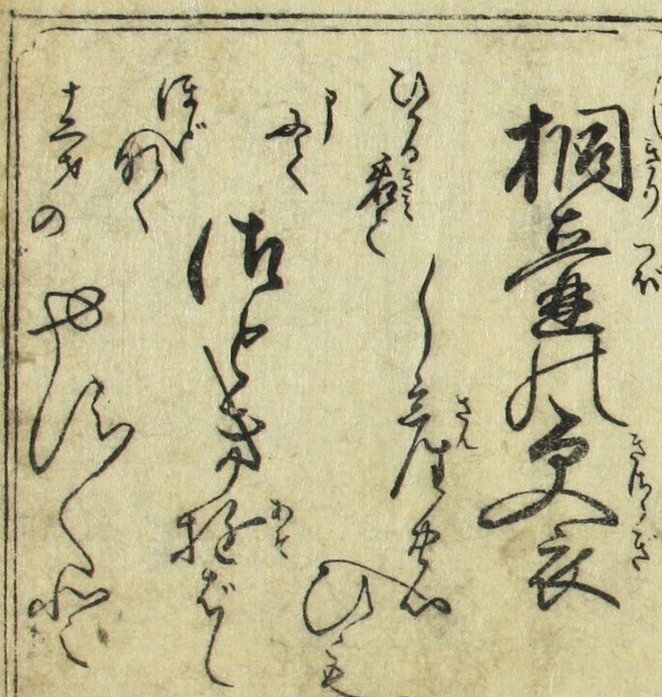
第二 幸行 五十四首

桐壺	帚木	空蟬	夕顔	若紫	末摘花	紅葉賀	花宴	葵
榊	花散里	須磨	明石	澪標	蓬生	関屋	絵合	松風
薄雲	朝顔	少女	玉鬘	初音	胡蝶	蛍	常夏	篝火
野分	行幸	藤袴	真木柱	梅枝	藤のうら葉	若菜上	若菜下	柏木
横笛	鈴虫	夕霧	御法	幻	雲隠	匂宮	紅梅	竹川
橋姫	椎本	総角	宿木	東屋	浮舟	蜻蛉	手習	夢浮橋

桐壺

一

桐壺



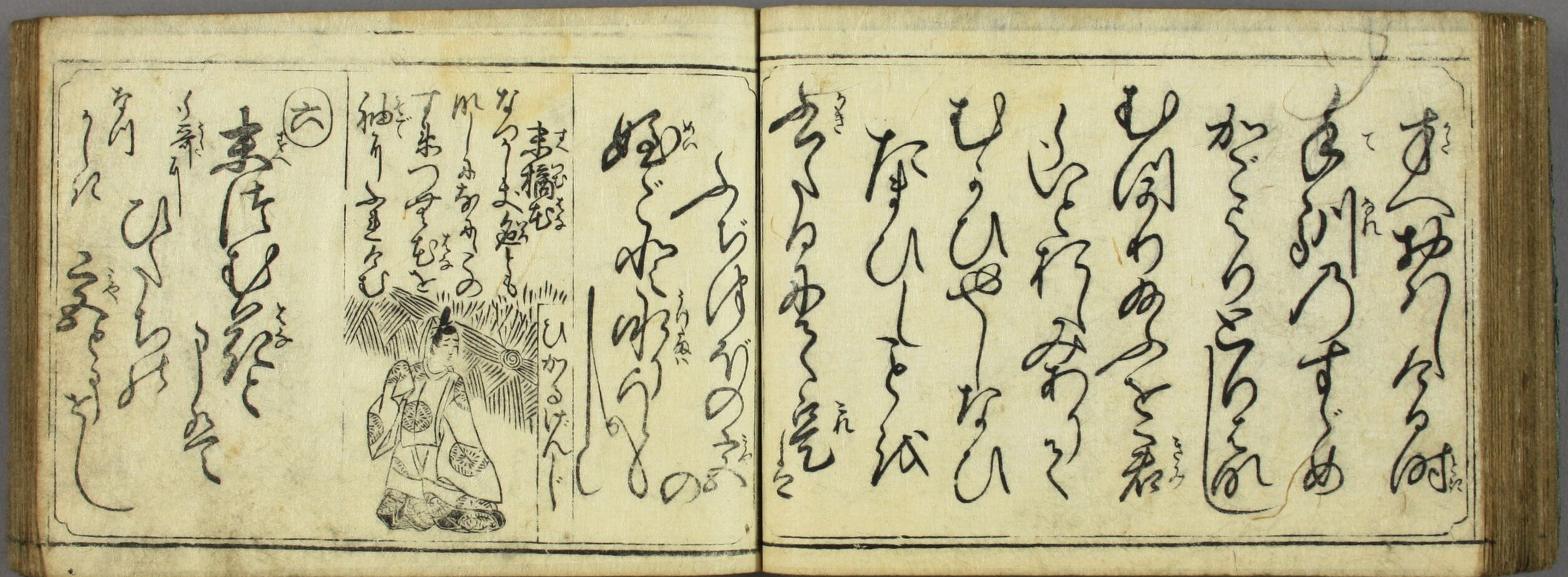
[illegible]

[illegible]

[illegible]

四

又


ひかるげんじ
六

七

神今度

[illegible]

[illegible]

八

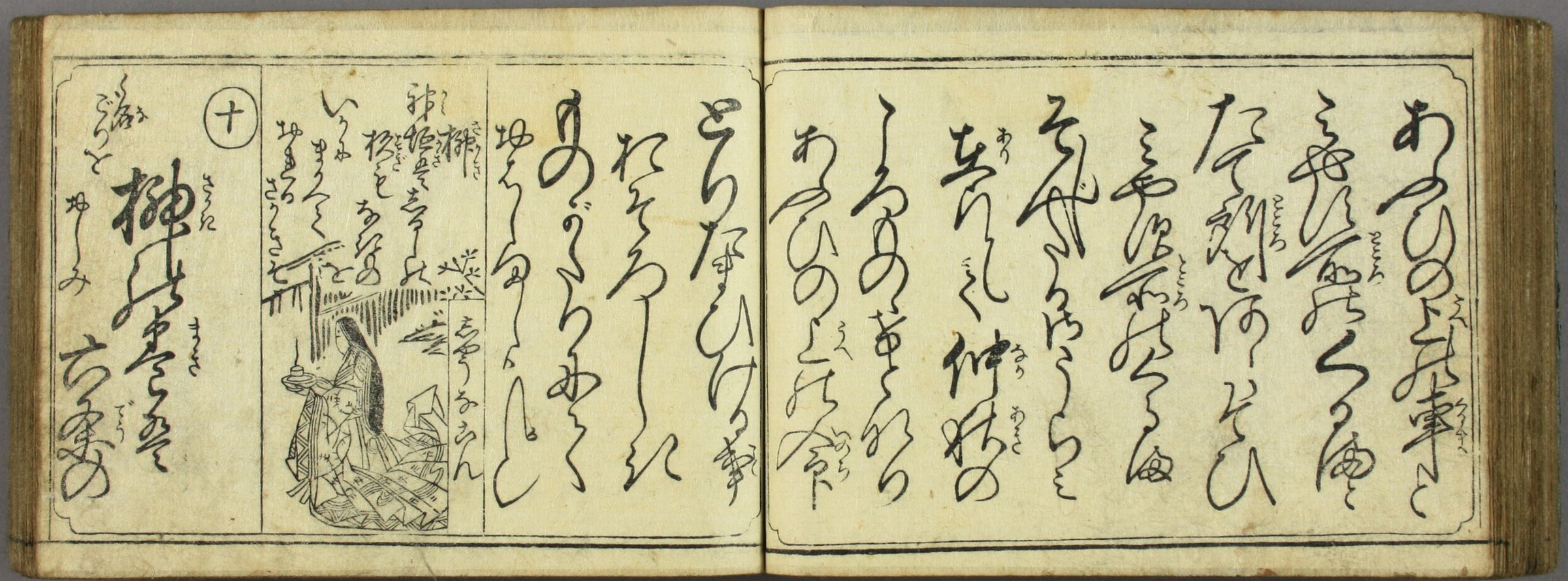
九

賀長おうひしさき

源氏の春長ふしと

おうひ車にのりて

ゆき



とうのかせう

十二

明石
秋乃夜長つゝ
なるまゝに我
ものゝ手をう
けましとおもふ
まゝとゝめ

むまうかみ

十二

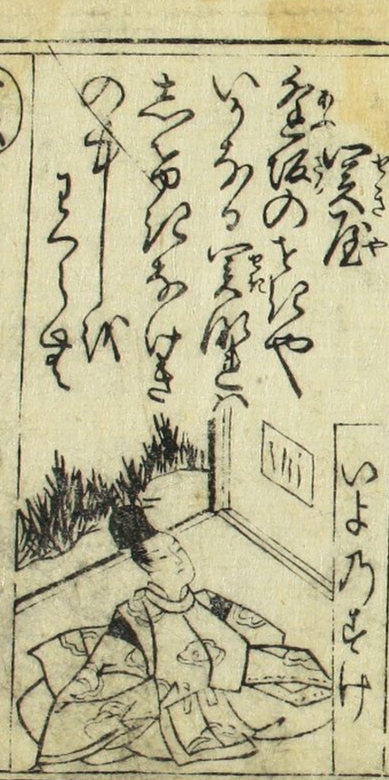
若紫

明石

十六

源氏出家

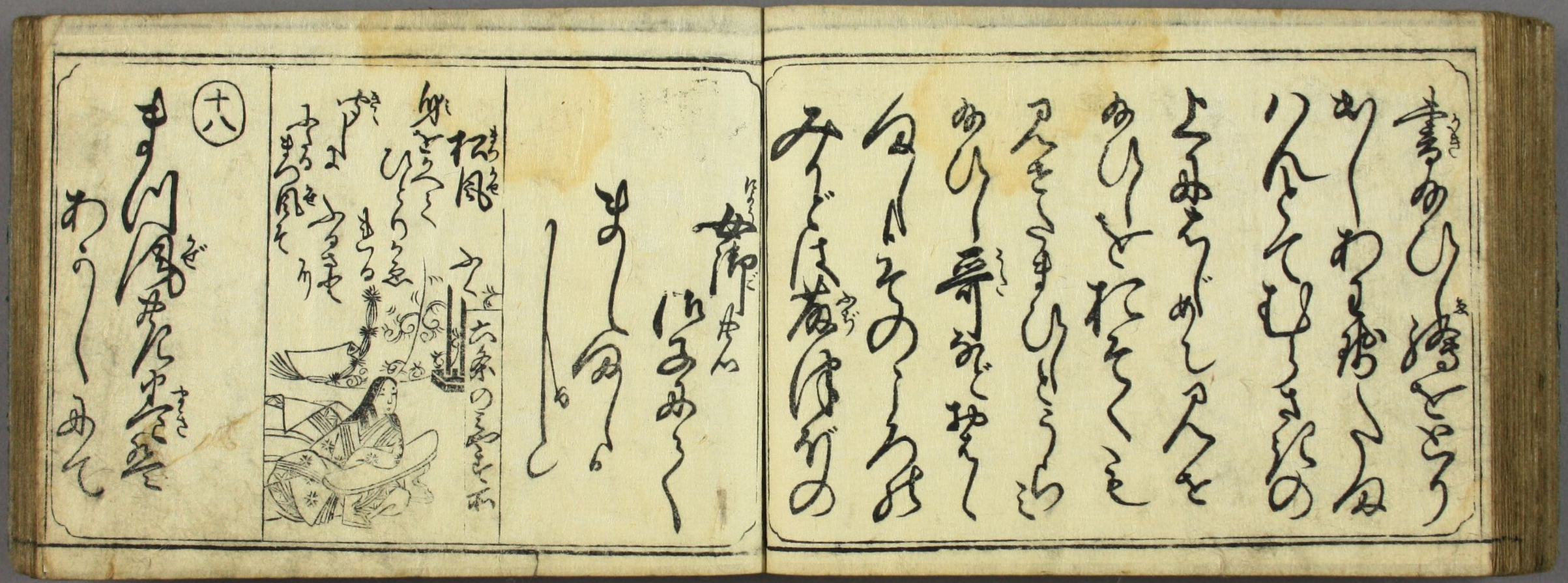
世を厭ふ源氏
ものがたり
の
ゆめ
あらく
ものかな



十七

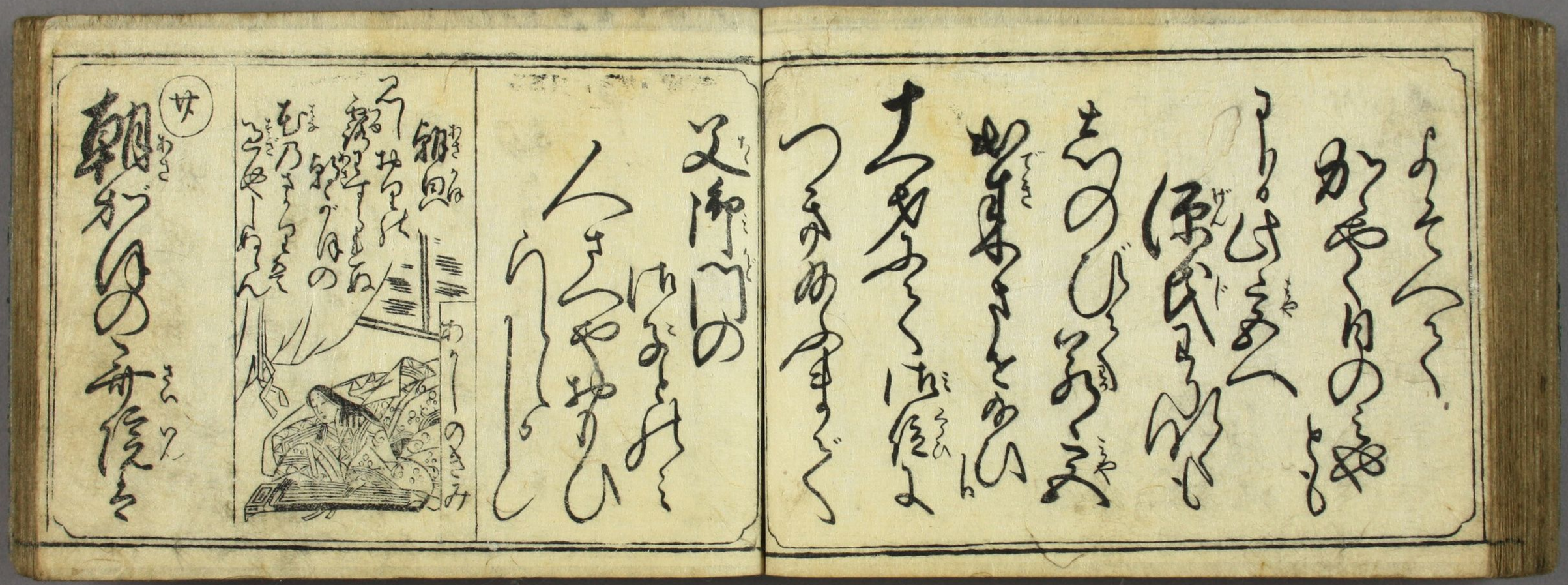
関屋

関屋の
いつるる
ものかな

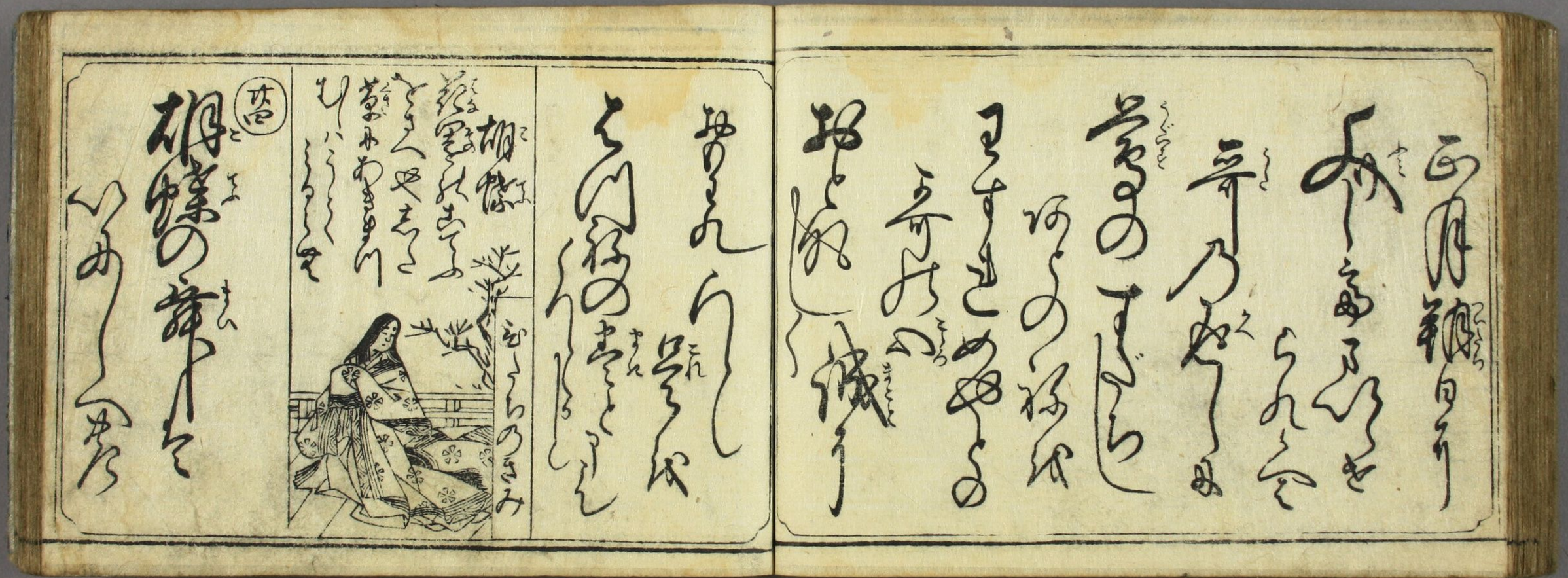


十八

十九



うちん



院宮御所なりの事

清涼殿

大般若経

法華経

これをかぐら

人のしも女

中宮

秋のむ

六条の院

紫式部

まゆみ

ひとの名

大弁

御

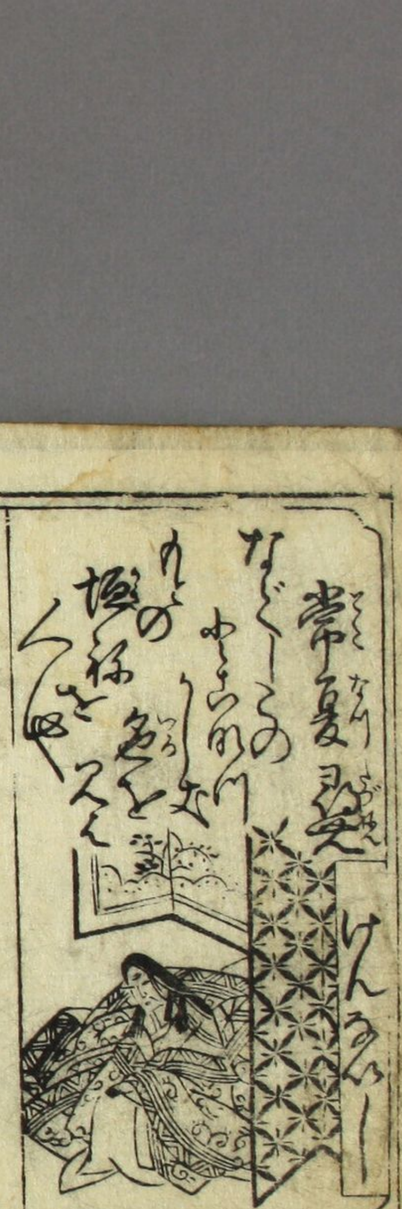
物語

五十五

源氏物語

常夏

なでしこの門

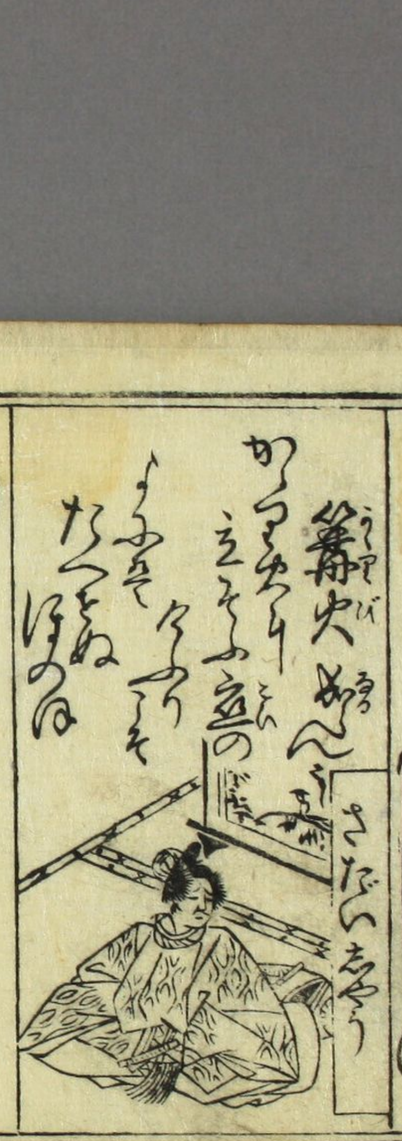


けんるい

(廿六)

源氏の君のの

なをとめ



九七

野分
たれさま

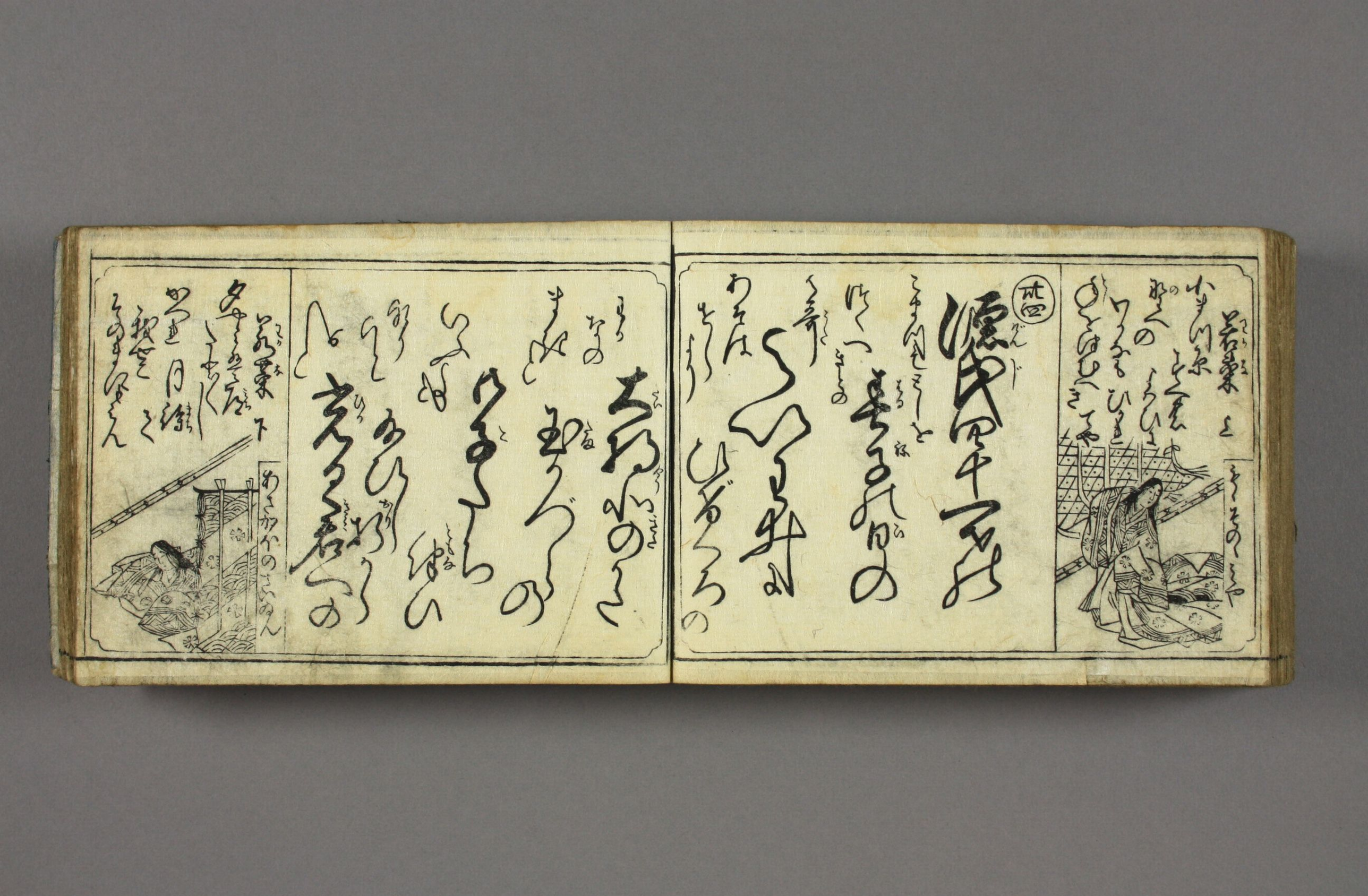
だんノきみ

あうしよへ道

あつみのさみ

中宮の
ものみせ
給ふ
そのこと
ことに
ものびて
はなやか
なり

東中將の
ひとりの
ものの
ものとて
ものの
ものの
ものの



春は花源氏の
のもとにはなちらせ
柏木はうんもの
ひとりのみ
女三宮のかたを
猫と云ふ人猫の
事

源氏のものあが
里とはなんそめ
柏木かひ
柏木源氏
のもとの
みわひ
あ事下紙と
人合しの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

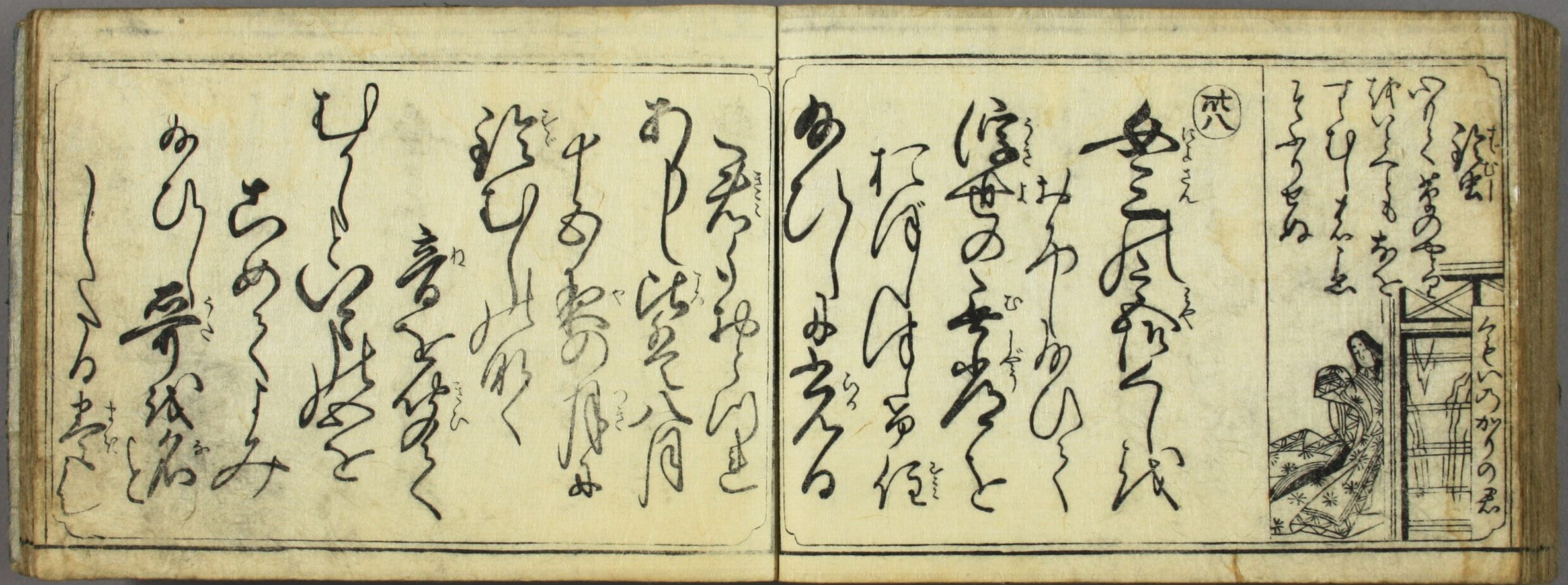
[illegible]

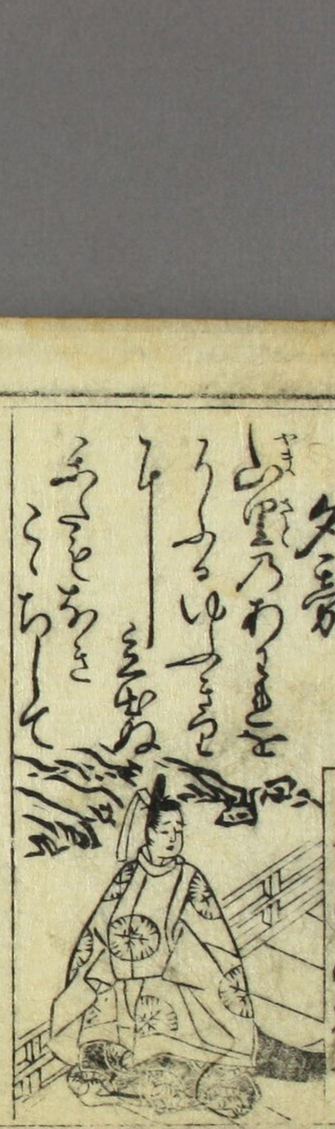
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]





夕ぐれのこゝろ

廿九

ひげくらべの太刀

竹川

たひめ

四十四

竹川は奇の
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

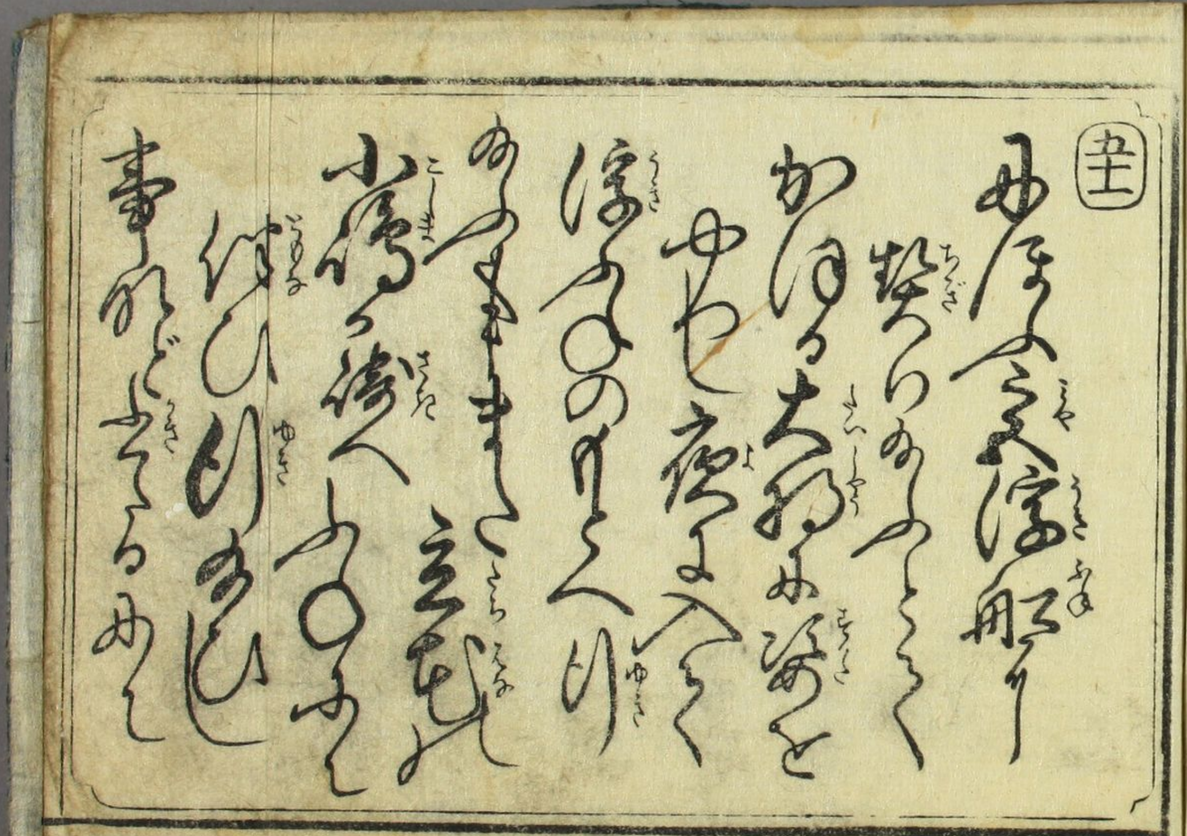
四十五

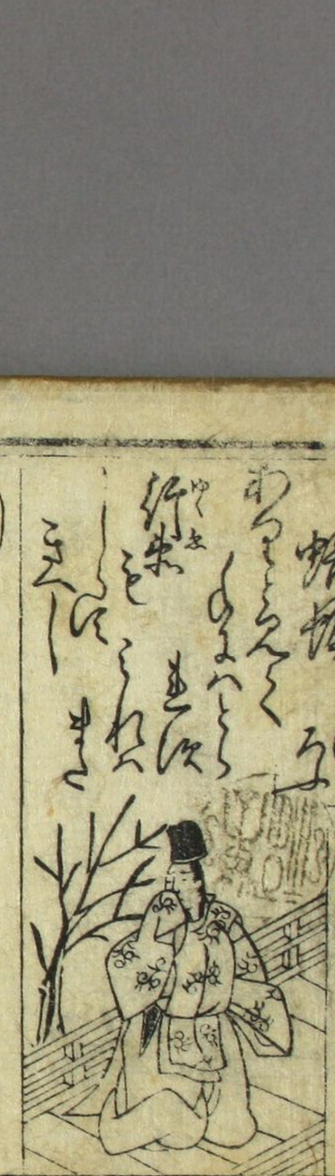
宇治の八の宮に
[illegible]一人
[illegible]源氏の
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

四十六

[illegible]
[illegible]

小むらさき



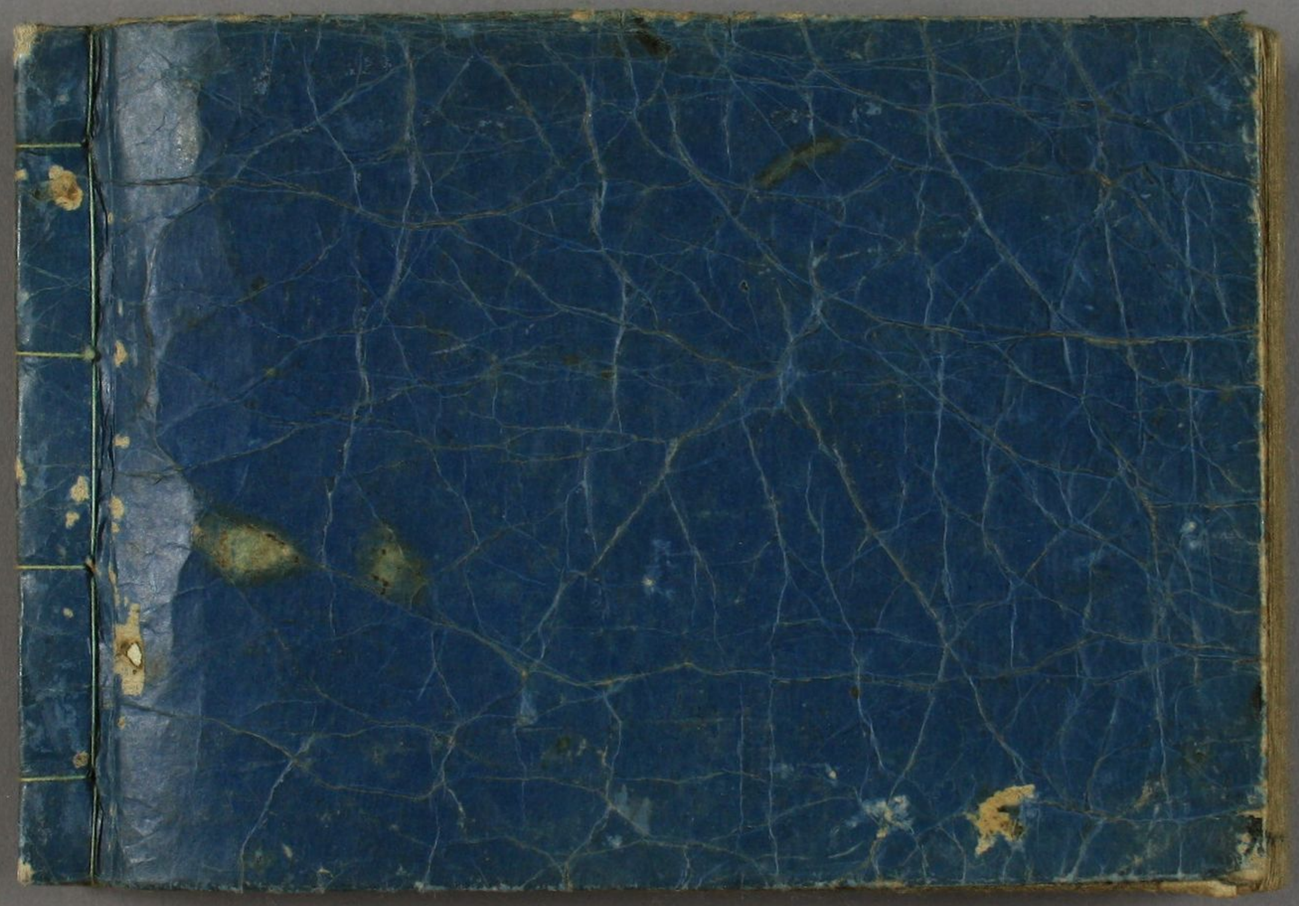


五十三

浮船の雲のゆき
ゑもなくふるあめ
いつまでも明くらせ
ぬひけるを旬ふる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ごめんやーさんとの字